

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第1老人福祉センター	階数	地上2F
建設地	愛知県小牧市大字野口2426-1他8	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,250時間/年
建物用途	集会所・病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年6月1日
敷地面積	11,430 m ²	作成者	松田晋征
建築面積	2,182 m ²	確認日	2017年6月1日
延床面積	3,721 m ²	確認者	松田晋征



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>4.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>47.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p>	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
1 耐震性									
2 免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									
2.4 信頼性									
1 空調・換気設備									
2 給排水・衛生設備									
3 電気設備									
4 機械・配管支持方法									
5 通信・情報設備									
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
1 階高のゆとり									
2 空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1 空調配管の更新性									
2 給排水管の更新性									
3 電気配線の更新性									
4 通信配線の更新性									
5 設備機器の更新性									
6 バックアップスペースの確保									

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30
1 生物環境の保全と創出	独自③	敷地内の緑地を極力残置		4.0	0.30	-	-	4.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	周辺景観に調和		4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30	-	-	4.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	玄関底、バルコニーを設置。通風採光を意図した開口部を設置		5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.66		4.0	0.30	-	-	4.0	
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライト設置		4.0	0.20	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化				3.0	0.30	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率機器の採用		3.0	1.00	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.8	
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水		節水コマ+省水型便器の採用		4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		② 独自	機・畳・ルーフィング	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げを容易に分別可能な計画	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.22	-	-	4.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用		用途上、有害物質を含まない建材を使用		5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.6	0.68	-	-	-	
1 消火剤		粉末消火設備使用		4.0	0.33	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	-	
3 冷媒		自然冷媒を使用		4.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9	
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2概算値:98%	3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車台数116台	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-	-	
1 騒音		独自		-	-	-	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				2.3	0.67	-	-	-	
1 風害の抑制				2.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		日影規制をほぼ敷地境界内に全て納めている		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.33	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のガラス面に覆れる光への対策		屋外のサイン照明なし		4.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
第1老人福祉センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	外構緑化:47.53%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 地域の健康老人のための「集いの間」として、「交流」「安心安全」「快適」「防災」をキーワードに敷地周囲の豊かな自然や光、風を取り込んだ開放的な空間を計画する。また、地域の安心安全の拠点として、いざという時の福祉避難所としての機能も併せ持つ計画とする。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 西面には極力開口部を設けず、西日の影響を少なくして適切な温熱環境としながら、勾配屋根を活かした高窓を配し、十分な採光と空間的広がり確保する。音が干渉しあう恐れのある集会室と機能回復訓練室は離して計画し、機能回復訓練室・会議室・ヘルストロン室・創作室・教養娯楽室と廊下の間の壁は遮音壁としている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 過度な大空間など不安な要素は排除しながら、勾配天井を活かした広がりを持たせている。老人の利用に配慮し、バリアフリー計画としている。ディテールは日常的なメンテナンスのしやすい材料を選ぶ計画とする。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 廊下端部は窓を設け、建物中央部に吹き抜けを設けることで、光と風を取り込める解放感ある計画としている。浴室棟はプライバシーに配慮しながらも、外の景色が楽しめる窓を設置して自然を感じられる計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 落下防止を図りながら、自然通風が十分可能となるように配慮する。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 便器など節水型の機器を採用する。外構や仕上材などにリサイクル建材を導入する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 隣接敷地への日影に配慮した配置計画を行う。歩行者動線を確保し、現施設よりも多くの駐車台数の確保を行う。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。